

令和4年9月22日

ALIC/USMEF定期情報交換会議の概要について

独立行政法人農畜産業振興機構

このたび、独立行政法人農畜産業振興機構（ALIC）は、米国食肉輸出連合会（USMEF）と定期情報交換会議を開催しました。

本会議は、日本と米国の食肉の需給状況等について意見交換を行う場として両国において、原則、毎年度交互に開催していたところ、新型コロナウイルスの影響により開催を見合わせており、今年は3年ぶり、通算34回目の開催となりました。

記

1 日 時：令和4年9月15日（木）午前10時00分～12時00分

2 場 所：ALIC会議室

3 参加者

ALIC

庄司（副理事長）、本田（総括理事）、菅宮（理事）ほか

USMEF

ダン・ホルストロム（会長）、ジョン・ヒナーズ（副会長）ほか

4 会議内容

ホルストロム会長と庄司副理事長の挨拶の後、双方から米国及び日本の食肉需給について説明し、意見交換を行った。

<USMEFからの米国の食肉需給についての説明概要>

【牛肉関連】

- ・2022年7月1日時点での肉用牛の総飼養頭数は前年同月を2%下回る。テキサス、オクラホマ、カンザス、ネブラスカなどの中南部の州における干ばつの影響が大きく、母牛を中心にと畜が増加したことが要因。

- ・飼養頭数は減ったものの、と畜頭数が増加しているため、今年の牛肉生産量は前年並み。ただし、23年から24年にかけては減少する見込み。
- ・と畜の内訳をみると繁殖成績の低い経産牛を優先的にと畜に回している。結果的に成績の悪い経産牛が淘汰され、成績の良い経産牛が残ることになり、将来的には牛肉生産の増加に寄与すると考えている。
- ・今年の干ばつのレベルについては、2015年以来の大干ばつに匹敵すると捉えている。
- ・米国産牛肉のアジア向け輸出が2015年から2倍に増加、米国産牛肉の需要をけん引している。
- ・穀物肥育牛に対する旺盛な需要により、今年の米国の輸出は韓国、中国、台湾向けが増加、日本向けも堅調に推移している。

【豚肉関連】

- ・2022年6月1日時点での豚総飼養頭数は前年同月を0.9%下回る。しかし、1腹当たりの生産頭数が増加していることで、来年以降、生産は回復すると見込まれる。
- ・豚肉の今年の輸出量は減少しているが、中国を除くとほぼ変わらない。つまり、輸出量の減少分は中国への減少分であるといえる。
- ・中国は生体豚価格が高騰しているため、今後輸入量が増えると予測される。ただし、米国からの輸入には25%の追加関税がかかってしまうため、米国産豚肉の輸出は2019年を下回る水準になると推測。

なお、ALICからは、日本の牛肉および豚肉の直近の需給動向等について説明を行った。

問い合わせ先

調査情報部 中野、上村

電話 03-3583-9804、4397